

池田勇人伝 (1) —日本を変えた男—



大志を抱く

竹原市出身の政治家、池田勇人は、日本に「東洋の奇跡」と呼ばれる高度経済成長をもたらしました。

池田勇人の没後50年にあたる今年、たけはら美術館において、特別展を開催します。特別展に先立ち、3回にわたり、池田勇人の言葉と人生について、様々なエピソードを交えながら紹介します。

幼い日の大志

池田勇人は、明治32年に吉名村で生まれました。

実家は「沖屋」の屋号を持つ商家で、勇人は7番目の末っ子でした。

家を継ぐ6番目の兄が箱入



▲明治38年家族写真(勇人(当時6歳)は右から3番目)



▲五高時代の勇人

り息子だったのに対し、勇人はやんちゃな子どもでした。いたずらの罰として蔵に閉じ込められても、泣くどころか蔵の中身を引っくり返して、閉じ込めたことを「謝るならここから出る」と開き直ります。

やんちゃな勇人でしたが、ある日、母から将来何になりたいのかと聞かれたとき「日本と外国のハシワタシになるんや」と答えます。

着物の裾をまくり、足を踏ん張って、こんな風に日本と外国に足をかけると答えたその姿には、確かな大志がありました。

勇人のいろんな顔

勇人は、吉名尋常小学校を卒業後、旧制忠海中学(現在の忠海高校)に進みます。

中学時代の勇人は、試験の前だけ机に張り付いて勉強していたことから、板に付く「カマボコ」と呼ばれていました。

旧友はこの時期の勇人について、むしろ地味な存在だったと語っています。

熊本にあった第五高等学校に入学すると、もともとあつたやんちゃな面が一気に顔を出します。

授業や勉強にはあまり熱心ではなく、友人と一緒に碁を打つばかり。一方で、集会やクラス会の時には進行役をかって出るなど、リーダーシップを発揮することもあり、飾り気が無く、一本気な学生の多い五高の中にあつて、勇人は非常に目立つ存在でした。

高校卒業間際には、屋台を借りて夜鳴きそば「池田屋」を開店するも、押し寄せた級友に気前よく食事を振舞い、わずか三日で店を潰すなど、豪快で面倒見のいい性格でした。

将来を見据える

高校時代の勇人は、一見、幼い日に抱いた大志を忘れてしまったように見えます。しかし、高校時代の友人は、当時の勇人を振り返って、「おとなだった」と語ります。

どこか自分の将来を見据えたところがあり、恋愛や流行の小説などに影響されることもありませんでした。

勇人は、高校を卒業するとき、友人に向かって真剣な顔で言います。

「今までお互いよく遊んだけれど、大学に入ったらしっかりと勉強しなけりゃならない。お互いにはずかしくない人間になろう」

高校時代は勇人にとって、最後の長いモラトリアムであり、大学時代は、大志を胸に一歩ずつ着実に歩みを進めていく時期でした。

勇人は京都大学在学中に高等文官試験に合格し、大正14

年に大蔵省に入省します。勇人は幼い日に抱いた大志を叶えるべく、キャリア官僚の道を選んだのでした。

参考図書

土師二三生

『人間 池田勇人』

伝記編纂所編

『人間 池田勇人』

問い合わせ

文化生涯学習室

☎ 22-7757

トピックス —竹鶴政孝との出会い—

勇人は中学では寄宿舎に入っていました。当時の寮監は後に「日本のウイスキーの父」となる竹鶴政孝でした。勇人は政孝の布団の上げ下ろし係で、柔道部の主将だった政孝に「怖い」という印象を持っていたそうです。

勇人と政孝の交流は勇人が亡くなるまで続き、政孝の影響もあつてか、勇人は国際的なパーティーで国産ウイスキーを使うように指示していたと伝えられています。



色鮮やかな七夕飾り

7月4日、あいふる通りで、第27回たけはら七夕まつりが開催されました。七夕飾りで彩られたあいふる通りには、雨にもかかわらず、たくさんの方が浴衣姿で訪れ、バンド演奏やビンゴ大会などのステージイベントや露店を楽しみました。



男女共同参画映画上映会

7月5日、たけはら美術館文化創造ホールで、映画「トークバック～沈黙を破る女たち～」の上映会が行われました。虐待、DV等の被害経験を持つ女性たちが、演劇を通して、自分らしく人生を生き直す姿を描いたドキュメンタリー映画です。上映後には、この映画の監督である坂上香さんとの意見交換会も行われました。



池田勇人元総理銅像リニューアル！

7月18日、吉名町の光海神社で、リニューアルした池田勇人元総理銅像の除幕式が行われました。池田元総理の没後50年を記念した事業で、竹原福祉会館前に建てられている銅像もリニューアルされています。新しくなった郷土の偉人の銅像を一度見に行かれてはどうですか。



ちょっさじゃ！ 忠海祇園祭

7月19日、旧忠海町一帯で、忠海祇園祭とみこし行事が行われました。航海安全、商売繁盛、無病息災を祈願して行われる伝統あるお祭りで、先輩達の指導のもと、20歳を迎えた男女が中心となって盛り上げます。「ちょっさじゃ！」と声をかけながらみこしを担ぎ練り歩く姿はとても力強く、多くの人を魅了しました。



写真
上：リフレッシュ
瀬戸内
中：吉名町
海浜清掃活動
下：おさかな放流

きれいな海を 守っていくために

6月28日、的場海水浴場でリフレッシュ瀬戸内が、吉名町の平方地区の海浜で吉名町海浜清掃活動が行われ、リフレッシュ瀬戸内では、家族で参加している人、地元企業や団体の人など約430人が、吉名町海浜清掃活動では、吉名町協働のまちづくりネットワークや地域の人、地元中学生など約300人が参加し、海岸を美しくしようと清掃活動を行いました。

また、7月12日、大久野島では、おさかな放流・海岸クリーンアップが行われ、親子など約160人が、大久野島の海岸を清掃した後、稚魚の放流を行いました。



全国大会激励会！

7月13日、市民館で、全国大会出場者激励会が行われました。

今回、厳しい予選を勝ち抜いて全国大会への出場を決めた14人のうち、8人が激励会に参加し、意気込みを語りました。出場者のみなさん、全国大会でも練習の成果を発揮して、それぞれの目標が達成できるよう、頑張ってください。